

場所 大宮ふれあい工房
日時 2023年11月19日(日)～11月26日(日)
開館時間 午前10時～午後5時

- カンビョンユン (クレイワーク)
- カタリコト 安田敦美 (唄) 山崎昭典 (ギター)
- 木本景子 (絵画とライブペイント)
- 奥野英恵 (フルートによる演奏)



2010年、京丹後市丹後町で「大地は器 2010 日韓間人展 in 中浜」を開催した。それは東アジアと交流を図り、地域文化との関係性を紐解くというイベントであった。

それから13年が経ち、個々の交流は盛んになり、インバウンドで多くの東アジアの人たちが訪れるようになったが、国家間では東アジアの関係性は一向によくないのが残念である。

地域文化を考えるには隣国を知る事が大事であり、そのことにより地域の文化の成り立ちがわかる。丹後においては、古代や中世に、日本海を海の道とした流れ（ストーリー）があり、現在の日本の美意識を創ったと考えられるのではないだろうか。また地域の魅力を引き出しながら文化を定着させるためにも、地元アーティストの育成や地域で文化を消費する社会環境が必要であると考え。この課題はアーティストやアートコーディネーターといった美術関係者だけでなく、地域全体で考える課題ではないか。文化を考えることは私たちのアイデンティティを考えることであり、世界中がスタンダードな考え方や価値観を持つ傾向にある中、地域文化がいかに関わりの拠りどころとなるかがこの課題の難しさである。言わば地域の「個性化」でもあるが、ひとつ間違えれば孤立に繋がるかもしれない。そのためにもコミュニティや個々の関係性の中で育む必要があり、「地域社会」の文化的概念の構築と、それがどのように世界との関係性を持つことができるかが、今後の地域の課題ではないか。

京丹後市に於いても今後他国の人が多く訪れると思うが「場所の文化」を知ってもらえる大きなチャンスでもあり、滞在するホテルや旅館などは衣食住の地域文化を発信できる第二の美術館であると考え、地域文化の意識を高めて、丹後を訪れた人たちに伝えられたらと思う。今回の企画展で、それぞれのアーティストの作品を体感してもらい、地域文化を考える機会の一助になればと思う。

ヒカリ美術館

■カンビョンユン（クレイワーク）

2010年に初めて日本、京丹後市に「日韓間人展 in 中浜 2010」のアーティスト・イン・レジデンスで来ました。それから13年経った今、縁あって京丹後市に暮らし、再びここで作品を作れた事は感慨深いものです。作品を作る時、私は定型化された形より土という素材が与える即効的な感じの面白さ、魅力を探することに集中しています。

日本と韓国を行き来しながら、今回の作品展とこれからもあるであろう作品展を通して、日本のアーティストたちと交流できるきっかけになればと思います。

■木本景子（絵画とライブペイント）

2022年の春、23年間住んでいたベルリンから豊岡市但東町へ引っ越してきました。今、私たちが住んでいる場所から子午線の塔が見えます。日本時間の基準となる東経135度がこの地域を通っている。なんだか地球の大きさを感じませんか。「その星が今も存在しているか不明ですが、その光はここに到着しています。」学生の頃、科学の授業でこのことを聞いて不思議に思いました。目の前にある風景はそこにあると認識していますが、もしかすると私は「すでに消えている風景」をみているのかもしれない。

■奥野英恵（フルートによる演奏）

「地域に根ざした音楽活動」をモットーにしています。時代をともにする音楽が、難解なもの、堅苦しいもの、贅沢なものである必要はありません。

観衆を置き去りにせず共に楽しみ成長し、その場限りの使い捨てではない、自分達の時代の芸術をつくり、地域社会により密着し、作り手・観衆、時間・空間・人間たちの出逢いと共鳴が生まれ育まれる芸術の現場を提供できれば幸いです。

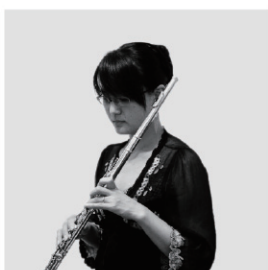
■カタリコト 安田敦美（唄） 山崎昭典（ギター）

丹後で生まれ、育ち、仕事をして今も生活しています。いつでも私の人生は丹後と共にありました。ありのまま大地を感じながら歌いたいと思います。

カタリコトは私と山崎昭典がポピュラー音楽から即効音楽まで幅広く演奏するユニットです。

クラシックギターの音色は爪と玄の接触によって産まれる。30年間ギターを弾いているが、美しい音色を産むために爪の調整時間を割いている。

爪が玄に触れる角度、季節や体調の変化によっても調整具合は変わる。爪と玄との間にはさまる音色の変化は無限だ。一番大事なものは「爪弾き方」ではなく「爪の置き方」爪と玄が接触したその瞬間にほぼ音色は決まっている、最近そのように感じている。



■「種と大地」

今回の作品展は5人で全体を構成する企画である。カンビョンユンは手による接触（タッチ）で作家本人の身体的表現をクレイワークで制作、木本景子は筆致（ヒッチ）によるライブパフォーマンスで絵画を制作する。オープニングはプロセスがわかるライブにより体感できる。音楽家奥野英恵、唄とギターのユニットカタリコト（安田敦美 山崎昭典）の呼吸、鼓動、脈拍、発声といった身体に内在する波動を音でライブセッションする。

今回の展覧会は個々の作家がそれぞれ生まれ育った多様な環境を経験しながら現在にいたるストーリーがある。そのプロセスはそれぞれ違うが、今は丹後・但馬という同じ風土の中にいる。いわばこの地に落ちた植物の〈種〉のようなものである。風で飛んできたのか、それとも鳥がくわえてきたのか、丹後・但馬という場所〈大地〉に舞い降りた。この場所で芸術という〈種〉が芽を出し、花が咲き、果実となり、場との関係性を持ちながら、世界に向けて発信したい。



〒629-2523 京都府京丹後市大宮町三坂105-3



11月19日（日曜日）オープニングパフォーマンス

14:00~16:00 絵と音の公開制作とライブ
ライブペイント 木本景子
音楽 奥野英恵（フルート） カタリコト 安田敦美（唄） 山崎昭典（ギター）

11月23日（木曜日）パフォーマンス

14:00~16:00 絵と音の公開制作とライブ
ライブペイント 木本景子
音楽 奥野英恵（フルート） 山崎昭典（ギター）

11月26日（日曜日）クロージングコンサート ~タンゴの響き~

14:00~15:00
奥野英恵（フルート） 山崎昭典（ギター）

11月19日（日）

20日（月）

21日（火）

22日（休館日）

23日（木）

24日（金）

25日（土）

26日（日）

オープニングパフォーマンス

パフォーマンス

クロージングコンサート